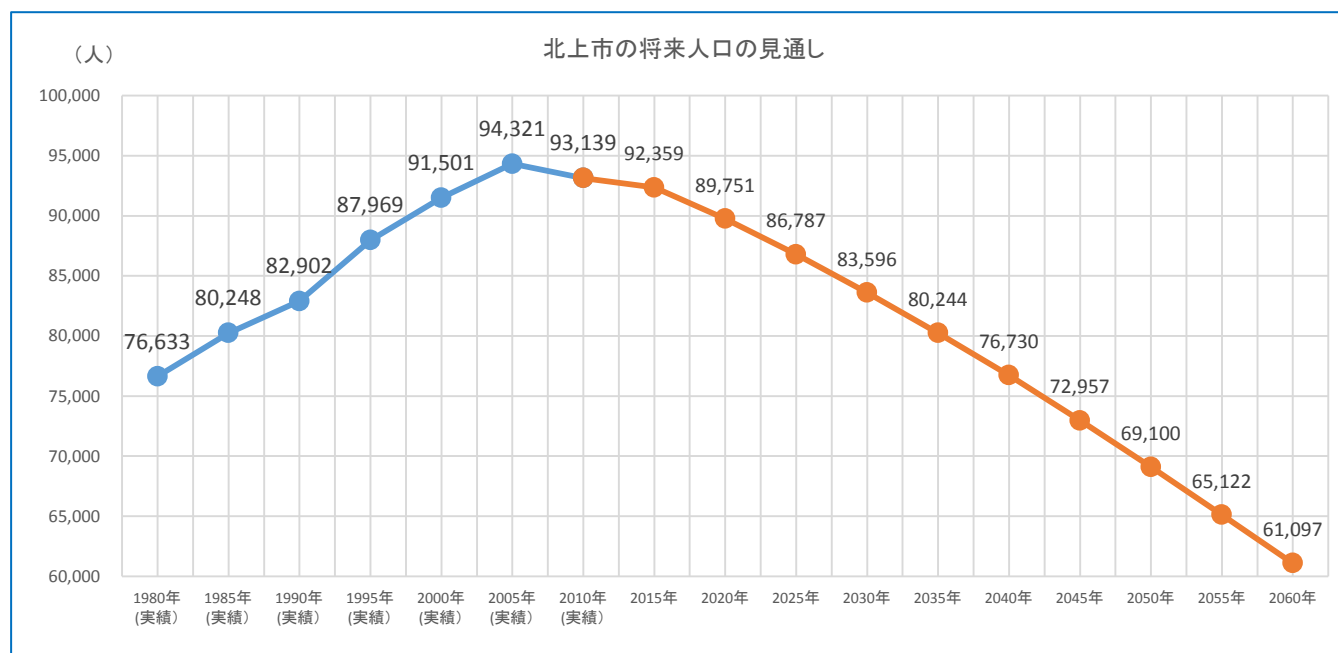


4 北上市の人口の現状と課題

(1) 人口の現状と今後の予測

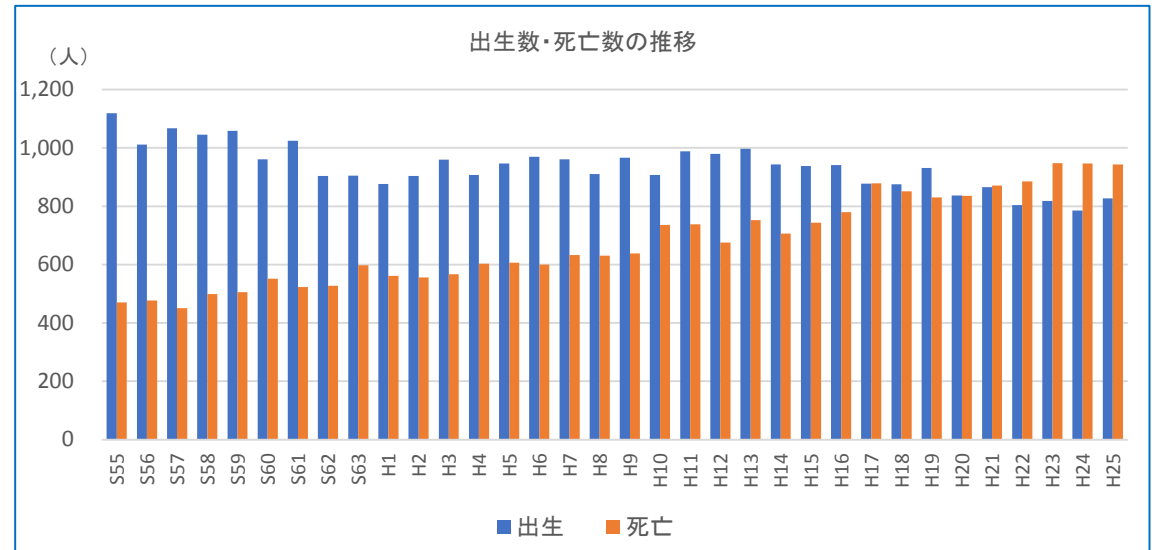
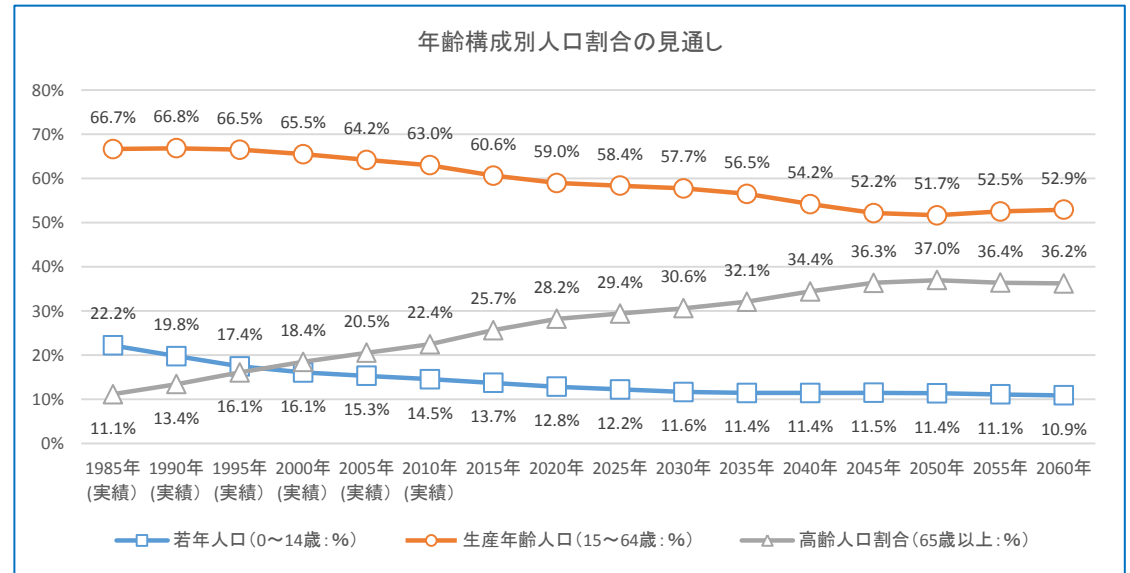
北上市の人口を長期スパンで見ると、戦後の昭和 22 年の 65,529 人から昭和 35 年まで人口増加が続いていましたが、昭和 35 年から昭和 45 年において一時的に人口減少に転じました。昭和 50 年以降は人口増加が長く続きましたが、平成 17 年の 94,321 人をピークに再び人口減少に転じ、平成 22 年には 93,138 人となっています。国立社会保障・人口問題研究所による人口推計では、近年の傾向で推移した場合、今後も人口は減少を続け、平成 72 年には 61,097 人（平成 22 年から約 34%減少）になると見込まれています。



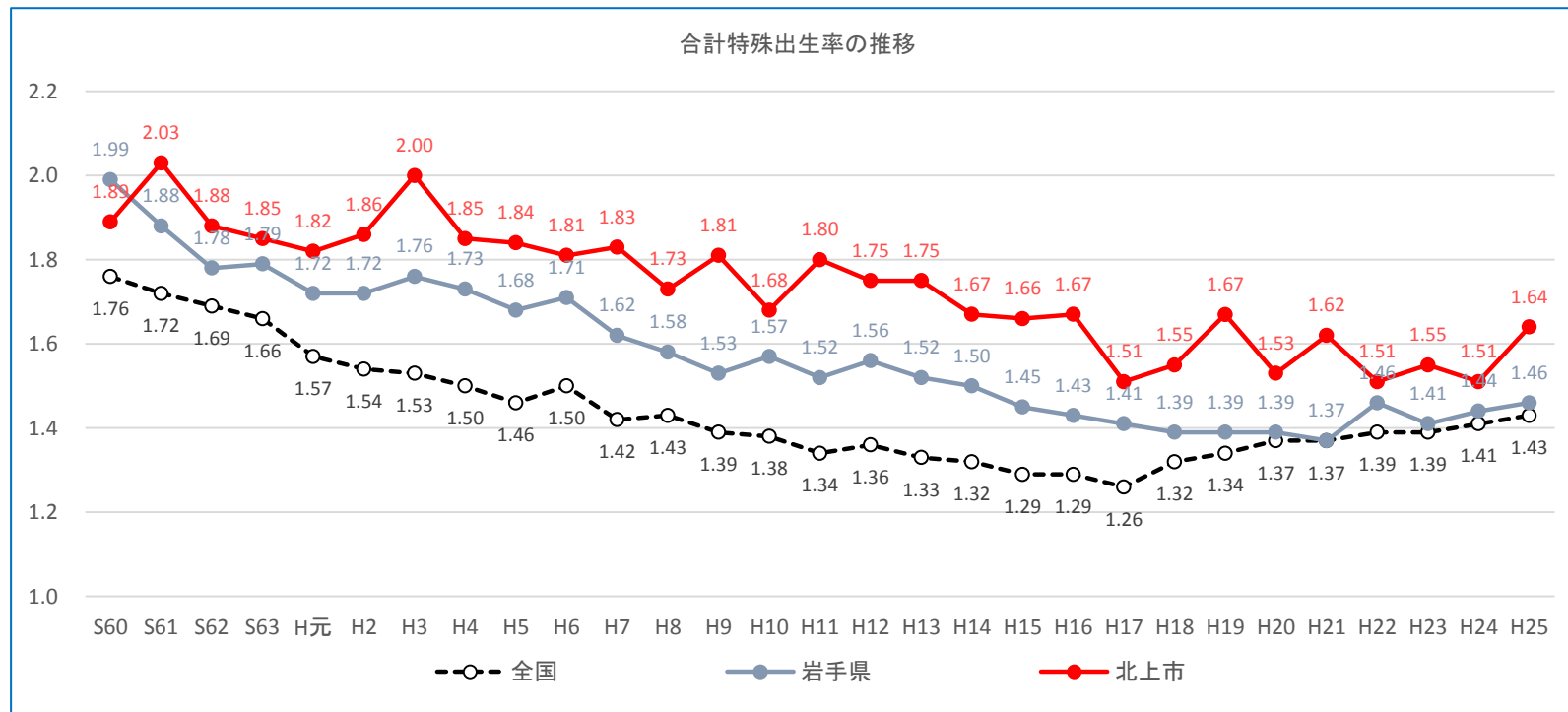
出典：国立社会保障・人口問題研究所「将来人口推計」を加工

年齢別構成比では、若年人口率は緩やかに減り続けるのに対し、高齢人口率は増え続け、平成 52 年（2040 年）には市の全体人口の 3 分の 1 以上になると見込まれています。しかし、高齢人口率は平成 62 年（2050 年）以降減少すると見込まれています。

自然増減について、北上市の出生数は緩やかな減少傾向にあるのに対して、死亡数は増加傾向にあり、平成 25 年の死亡数は昭和 55 年の約 2 倍となっています。総人口の増加が続いた平成 20 年までは、出生数が死亡数を上回る自然増の傾向が続いていましたが、平成 21 年以降は自然減に転じています。



また、平成 12 年から平成 24 年の婚姻数の推移は減少傾向にあり、平成 12 年から平成 22 年の 5 歳階級別の有配偶率をみると、男性はほぼ全ての年代で、女性は 20～40 歳代で配偶率が減少傾向にあります。なお、1 人の女性が一生に産む子どもの平均人数を算出した「合計特殊出生率」について、昭和 60 年～平成 25 年の最大値は昭和 61 年の 2.03 です。合計特殊出生率は毎年増減を繰り返しながら推移しており、長いスパンで見ると緩やかな減少傾向が続いていますが、全国及び岩手県に比べて高い水準を保っています。しかし、今後は 15～39 歳の若年女性人口は平成 52 年には 9,042 人（平成 22 年から 31% 減少）、平成 72 年には 6,779 人（平成 22 年から 48% 減少）と女性の人口も急激に減少することが見込まれており、市内で結婚・出産をする女性も減少すると考えられますので、少子化が一層進行すると予想されます。

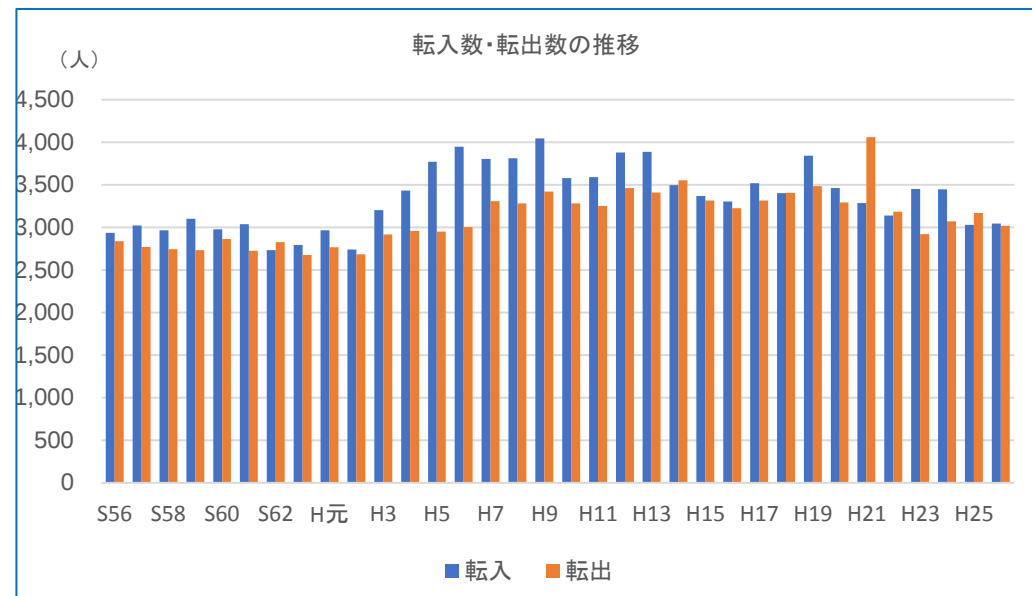


出典：岩手県環境保健研究センター「人口動態統計データ」

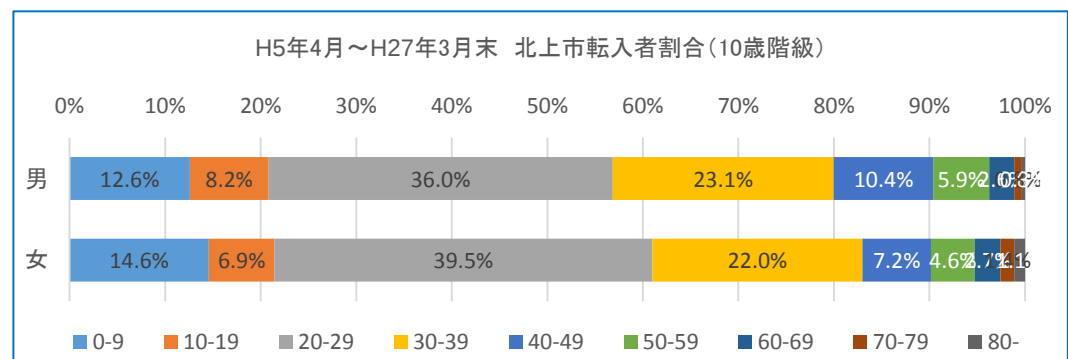
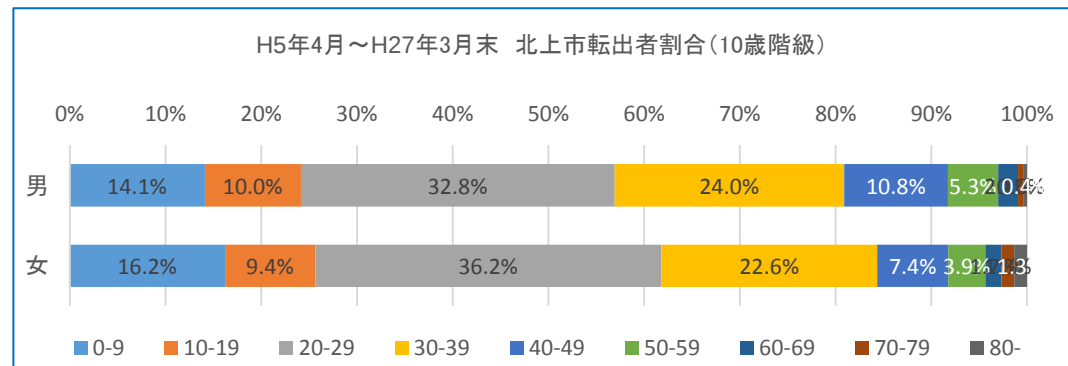
社会増減は、平成 20 年までは概ね転入超過の状態が続いていましたが、平成 21 年には 774 人の転出超過に転じ、以降は転入超過と転出超過を繰り返しています。

転入者及び転出者の内訳では、県内市町間での移動が多く、その理由もアンケート調査によると仕事を理由にした移動が約半数を占めております。

また、年齢層に着目してみると、20～30 代の若い世代の移動が顕著であり、若年層の流出は労働力不足、ひいては域内消費費の縮小、経済活動の衰退を引き起こす要因になります。



出典：北上市統計データ



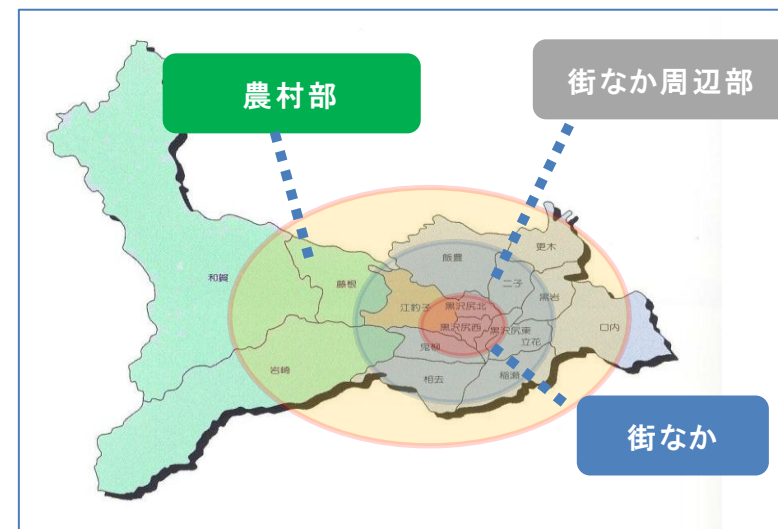
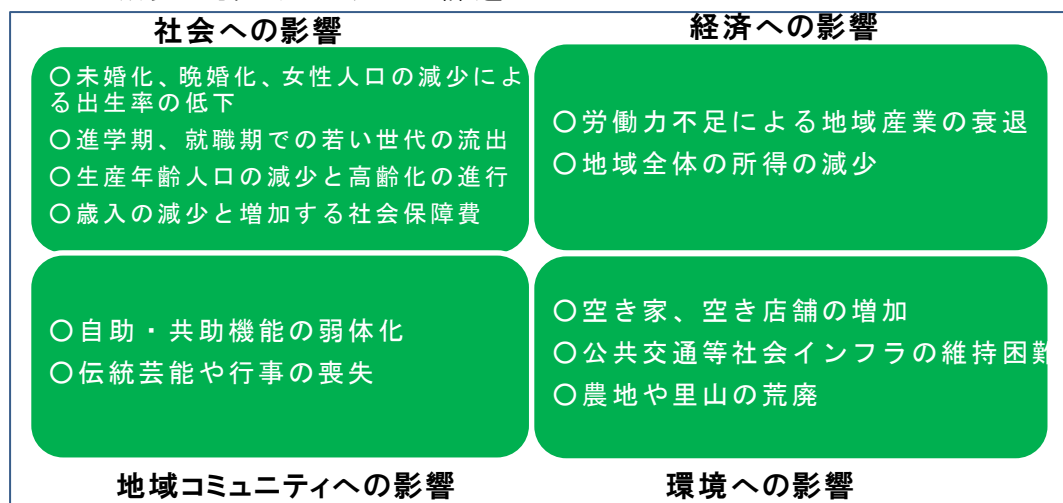
出典：北上市住民基本台帳（転出入データ）を加工

(2) 人口減少により生じる課題

人口の現状と今後の予測から導き出される全市的な課題については次のとおり整理できます。

出生率の低下や若年世代の転出、生産年齢人口の減少による地域全体の所得の減少、また、これに比例する域内消費や市内総生産の減少、さらには、過疎化の進行によるコミュニティ機能の低下や公共交通機関の維持困難、減少する歳入と増加する行財政需要などへの対応が必要となってきます。

■人口減少が引き起こす主な課題



ただし、ひとえに課題と言っても、市街地や農村部などの地域に目を移すとその在り様は決して同じではありません。上図に示す3エリアごとに整理すると、中心市街地を形成する「街なか」では、小売商店数の減少や空き家、空き地の増加、介護・医療等福祉施設や保育所では増加する需要に対応できる人材の確保などが挙げられます。また、工業団地を形成し企業の集積が進んでいるため、生産年齢人口の減少による労働者不足が懸念されます。人口減少が特に著しい「農村部」では、少子化・過疎化がより一層進行するため、地域コミュニティを維持するための人材不足による自助・共助の維持困難や国重要無形文化財である鬼剣舞など郷土芸能の喪失、本市の産業の中核を担う稲作を中心とした農業の担い手不足などを引き起こします。このように地域に生じる課題は様々であるため、その特徴を見極め、きめ細やかな対応をすることが必要です。

街なか



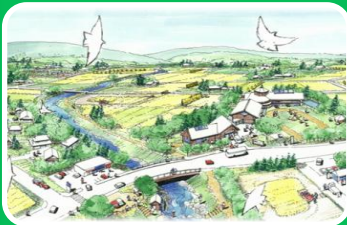
- ・ 駅周辺の賑わい喪失、商店街の空洞化
- ・ 転入者と地元住民の連携不足
- ・ 保育・介護・医療等人材の不足
- ・ 空き家、空き地の増加
- ・ 保育所待機児童数の増加

街なか周辺部（郊外）



- ・ 地域産業の担い手不足
- ・ 保育所待機児童数の増加
- ・ 都市拠点へつなぐ交通ネットワークの確保
- ・ 農業の担い手不足
- ・ 農地の荒廃

農村部（人口減少地域）



- ・ 少子化や若年層の流出のさらなる進行
- ・ 過疎化や高齢世帯の増加による自助・共助機能の低下
- ・ 農林業の担い手不足
- ・ 伝統文化や行事の喪失
- ・ 農地や里山の荒廃
- ・ 都市拠点へつなぐ公共ネットワークの確保
- ・ 地域資源の埋没